



① インドネシア スラウェシ地域 保健医療強化事業

迅速・安全な輸血を促進し
保健医療水準向上に貢献

承諾額／実行額 22億3,100万円／12億7,100万円
 借約契約調印 1996年12月
 借約契約条件 金利2.7%(コンサルティングサービス部分は2.3%)、返済30年(うち据置10年)、
 一般アンタイド
 2003年12月
 貸付完了
 実施機関 保健省医療総局 URL: <http://www.depkes.go.id/>



本事業の目的

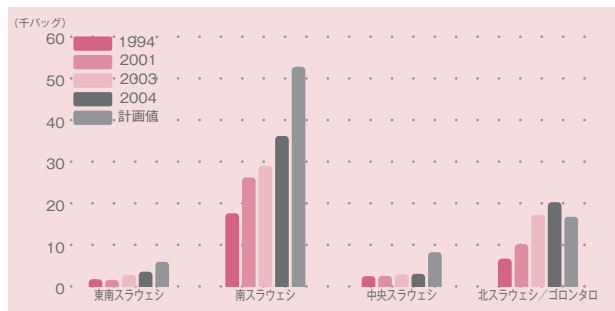
スラウェシ島全4州にて、血液関連施設の整備や機材供与、医療従事者の訓練や同島の地域保健医療にかかる基礎的調査を実施することにより、安全な血液の供給および適切な使用の強化を図り、同島の保健医療水準の向上に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) 評価a

事業完成前と比較し、各州で献血量は増加傾向にあり、血液センターによる献血活動の実施回数も着実に増加している。また、全州において、自発的献血量^{*}は増加し、梅毒、B型肝炎、C型肝炎、HIVの4感染症について感染スクリーニング検査が行われた血液の割合も改善がみられ、質の面でも向上がみられる。受益者調査(血液センター[9カ所]、病院内血液センター[17カ所]対象)では、献血量の増加に伴い事業実施後の血液製造数、供給数実績はともに増加していることが確認された。また、病院内に血液が保管されることにより、時間や費用面で患者の家族や病院職員の負担が軽減されたとの意見が寄せられた。本事業対象の6病院では、輸血の遅れに起因した死亡者数は2000年の65名に対し、2004年は5名と減少している。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。

^{*}献血者が血液、血漿、その他の血液成分を自らの意志で提供し、かつそれらに対して、金銭または金銭の代替とみなされる物の支払いを受けないこと。

献血量の推移



本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) 評価a

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性は極めて高い。本事業は第6次5カ年開発計画に基づき計画され、事後評価時点においても地方の保健医療の質の向上は引き続き重視されている。

事業実施の経済性(効率性) 評価b

本事業は、事業費については計画内におさまったものの、期間が計画を大幅に上回ったため(計画比160%程度)、効率性についての評価は中程度と判断される。事業遅延の主な要因としては、政府機構改革の影響でコンサルタントの選定に時間を要したこと、それにより工事および機材調達の開始が遅れたことが挙げられる。

今後の展望(持続性) 評価b

血液センター等の各施設は、技術面は問題ないが、体制面で慢性的な職員不足に直面しており、血液検査・製造と献血者確保の分業体制が構築されていない。財務面では運営予算が限られているため、機材更新、正規職員確保、試薬の品質維持等を行うのが困難な状況にあるが、持続性は概ね問題ないと評価される。

結論と教訓・提言

以上より、本事業の評価は高いといえる。地方政府からの支援を各施設が一律に享受される体制を構築すること、標準業務手続に沿ったサービスの確保を実現すべく、中央政府は今後においても本事業にかかる支援策を継続させていくことが望まれる。

開発途上国専門家の意見

本事業は、安全な血液供給や地方行政の意識向上に貢献。自治体は、各施設に十分な予算を充当すべきであり、また血液の質確保のため、検査や試薬調達をさらに中央に集中させること、およびその訓練を行うことが重要である。

専門家の氏名: Mr. Her Suselo (NGO)
 教育大学学士(教育一般)。現在、ヤヤサンバゲンミトラスジャーティ(BMS)代表等を務める。専門は家族計画、子供のための食糧プログラム等。